

## 1年間 主な行事

4

- 入学式
- 前期始業式
- 生徒会対面式
- 修学旅行(3年)



5

- 教育実習
- 梅の収穫・販売
- 部活動各大会



7

- 志賀高原  
宿泊学習(1年)
- 飛騨高山  
宿泊学習(2年)
- 個別懇談会



8

- 教育実習



9

- 附属小運動会



10

- 前期終業式
- 後期始業式
- 附中祭
- 保育実習(3年)



11

- 松本城清掃



12

- 個別懇談会
- 附中メモリアルコンサート

1

- バスケットボール  
クラスマッチ(1・2年)
- 3年生を送る会
- 後期終業式
- 卒業式



## 生徒会活動・部活動・主な受賞

### 生徒会・委員会

- 本部役員会 ○代議員会
- 校風 ○図書 ○学芸 ○体育 ○新聞 ○清掃美化
- 放送 ○会誌 ○園芸 ○応援 ○保健 ○附中祭実行
- 環境整備 ○ベルマーク ○ボランティア

### 部活動

- 【運動部】
- バレーボール部(女) ○バスケットボール部(男・女)
- 陸上部 ○サッカー部 ○水泳部
- 【文化部】
- 美術部 ○英語部 ○合唱部 ○吹奏楽部 ○演劇部

### 令和4年度の主な受賞

- 【国語】
- ・第45回長野県読書感想文コンクール 中学校I類 金賞
- ・第72回全国小・中学校作文コンクール 佳作
- 【社会】
- ・令和4年度中学生の「税についての作文」 松本地区納税貯蓄組合連合会長賞
- 【数学】
- ・2022年度塩野直道記念「算数・数学の自由研究」作品コンクール 長野県奨励賞
- 【理科】
- ・長野県学生科学賞作品展覧会 県教育委員会賞
- 【美術】
- ・第73回長野県児童生徒美術展覧会 選抜入選
- 【部活動等】
- 合唱部
- ・第36回長野県学校合唱大会兼第89回NHK全国学校音楽コンクール 長野県大会 奨励賞
- 吹奏楽部
- ・第60回長野県吹奏楽コンクール中学校A編成の部 長野県大会 銀賞
- サッカー部
- ・第61回長野県中学校総合体育大会サッカー競技の部準々決勝進出
- 水泳部
- ・第61回長野県中学校総合体育大会水泳競技大会 多数入賞
- ・第43回北信越中学校総合競技大会水泳競技 入賞
- 陸上部
- ・第61回長野県中学校総合体育大会陸上競技大会 出場
- ・第16回北信越中学校駅伝競走大会 出場

本校駐車場入り口は、  
北部交番の対面になります。



信州大学 | 教育学部 | 附属松本中学校

〒390-0871 松本市桐1-3-1 附属松本中学校  
TEL:0263-37-2212 FAX:0263-37-2226 E-mail:matuchu@shinshu-u.ac.jp



## 令和6年度 入学生徒募集要項

### 1. 募集人員

第1学年入学生 男子80名程度 女子80名程度 計160名

### 2. 志願者資格

松本市及び近接する市町村に、保護者と共に居住する学齢該当児童で、本校へ徒歩・自転車及び公共交通機関を利用して自力で通学できる者

### 3. 出願の受付

- (1) 受付期間 令和5年9月27日(水)～9月29日(金)
- (2) 受付時間 9:00～11:30 13:00～15:30
- (3) 受付場所 信州大学教育学部附属松本中学校 事務室

### 4. 出願の手続き

- (1) 志願者の保護者が、上記受付場所へ直接出向いて出願する。
- (2) 入学願書(用紙)の入手方法
  - ・市内小学校を通じて配布 7月21日(金)より各小学校に郵送、本校事務室でも配布する。
  - ・本校ホームページからダウンロードし、印刷した用紙に記入してもよい。用紙の種類は指定しない。
- (3) 出願の際に、次の5点をご提出ください。
  - ① 入学願書…必要事項を記入し、顔写真を貼り、在学する小学校長から在学証明印を得たもの。
  - ② 住民票1通…家族全員が記載され、令和5年8月1日以降に交付されたもの。
  - ③ 入学検定料…現金で5,000円。
  - ④ 現金領収書用紙…保護者氏名、志願者氏名を記入したもの。
  - ⑤ 返信用封筒1枚…角形2号 240mm×332mm：A4判の文書がそのまま入る大きさのもの。  
※140円切手を貼り、郵便番号、保護者の住所・氏名・様まで記入したもの。

### 5. 選抜検査

- ・内容 4教科(国語、算数、社会、理科)の学力検査(各教科20分)と作文(25分)及び紙面上面接(15分)。
- ・日時 令和5年10月22日(日)(8:30～12:30頃を予定)
- ・場所 信州大学教育学部附属松本中学校
- ・持ち物 上はき用運動靴、鉛筆、消しゴム、直定規
- ・検査結果 郵送で保護者に通知します。(11月8日(水)頃発送予定)

### 6. 令和6年度入学生保護者説明会

- ・日時 令和5年11月27日(月)14:30～15:30
- ・場所 本校体育館
- ※入学者選抜検査の結果、入学予定者に内定された児童の保護者を対象に説明会を行います。入学確約書をご持参の上、必ず出席してください。詳細については検査結果とともに郵送で通知します。

※本年度は追検査を実施しません。

※なお、令和7年度入学生より募集人員を第1学年入学生男子70名程度、女子70名程度、計140名に変更する予定です。  
詳しくは令和7年度入学生募集要項でお知らせします。

# 本校が目指していること

本校は、信州大学教育学部の附属学校としての使命や独自の行事がいくつかあります。それらを人間形成のための大事な機会ととらえ、日々の教育活動に活かしています。



本校のシンボル  
「灯をかかげる女」

## 1. 学校目標

「たくましく心豊かな地球市民 ～自主・創造・愛他～」

心身ともにたくましく、心が豊かで、国際的・地球的な視野をもち、かけがえない生命と地球を守り、社会・人類の幸福に尽くすことができる人間を目指します。また、「たくましく心豊かな地球市民」となるために次の三つの基本的な生き方の生徒像を目指します。

- 自主**……自ら求め、そのことになりきる生き方に努める生徒
- 創造**……自ら考え、つくり出そうとする生き方を育む生徒
- 愛他**……自らを省み、他を思いやり、自他ともによりよく生きようとする生徒

## 2. 附属学校としての使命

本校は、一般の公立学校と同様に、教育基本法及び学校教育法に基づいて生徒の教育を行うほか、附属学校として、右の三つの使命を担っています。

- (1) **教育実習**…信州大学教育学部の学生の教育実習を行う。
- (2) **教育研究**…先進的な教育の理論及び方法について実践研究を行う。
- (3) **現職教育**…公開研究会や教育研究会を行い、地域の現職教育に役立てる。

## 3. 主体的に学ぶ生徒の姿を目指す学校

- 学校職員がチームで、生徒の学びと育ちを支援します。
- 生徒の傍らに教師が共にある、師弟同行を大切にします。
- 授業や学校生活の中で輝く生徒の姿を求めて、教師は日々研鑽を積み、授業力をはじめとした実践力を高めています。
- 信州大学と連携した実践研究の中で、生徒が学ぶ楽しさ、探究するおもしろさを実感する場づくりを工夫しています。
- 学校通信、学年通信等により、学校の様子や生徒の学びの成果を、保護者の皆様と共有します。



## 4. 様々な人とのかかわりの中で学ぶ学校

- 附属松本小学校園幼小中公開研究会等における係活動を通して、奉仕の心や心配りを学びます。
- 教育実習の期間中は、実習の先生方と共に学びを深めます。
- 附属幼稚園での保育実習(家庭科)、附属松本小学校との交流(委員会、音楽会)等を通して、思いやりの心を育みます。
- 地域の方々をはじめとした外部講師との出会いにより、本物に触れ、自分の世界を広げます。



## 5. ユネスコスクールとして持続可能な開発のための教育(ESD)に取り組む学校

- 総合的な学習の時間では、学級ごとにテーマを決め、地域の伝統文化や自然を探究したり、地域の課題解決に取り組んだりしています。
- 地球環境保護への意識を高め、節電・節水・ゴミの分別・資源の再利用などのエコ活動を日常的に実践します。
- ボランティア活動の輪を生徒会や学級から全校へ広がります。
- 松本城清掃、梅の収穫・販売等の生徒会活動により、地域や社会へ積極的に貢献します。



生徒会による松本城清掃の活動

## 6. あたりまえのことをあたりまえにできる学校

- 「5分前行動、3分前着席、2分前学習」 …「時を守る」
- 私語を慎み、時間いっぱい、気を利かせ(場に応じた身支度と清掃活動) …「場を清める」
- 挨拶、返事、会釈の励行 …「礼を礼(ただ)す」

## 附属松本中学校の学び

協働的な学び、次なる問いへ

～教科(社会科)の授業から～

友だちと意見を共有することで、イギリス、フランス、アメリカの3つの国が日本との間で、どのような行動を起こし、その結果、どのような影響を受けたのかが見えてきた。日本はオランダからの情報で外国船が来航することを知っていたのに、開国に加えて、関税自主権がなく、領事裁判権を認めるという不平等な条約を結ぶことになってしまったから、諸外国がどれだけの力をもっているのかが気になった。国内の経済を保護するために、より強く外国とのつながりを制限する政策もあったはず。考えれば考えるほど、当時の人たちの難しい決断があったのだと感じる。



～総合的な学習の時間の取組から～

総合学習を通して「自ら課題を見つけ、それにどう対応し、解決に繋げるか」というのは思っているより難しかった。校内で私たちが取り組んできたことは、校外に出てみると多くの複雑な規制がかかるため、さらにその難しさを実感した。具体的には、利益を生み出す企業の在り方と地域との関係。ただ、そのように私たちが直面した「壁」を実感することは決して悪いことだとは思っていません。その「壁」にぶつかることができたからこそ、仲間と乗り越えていく楽しさを知り、次なる問いを得ることができた。目標に向かって行動を起こし、少しでも進むことができたのなら、その過程に意味があると思えるようになりました。

